

2026 1.1 vol.1133

JAグループ

JA全農ウイークリー

JA ZEN-NOH WEEKLY

賀
新
年



全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

令和8年年頭会長あいさつ

将来にわたつて日本の食料を守り、 生産者と消費者を安心で結ぶ

経営管理委員会会長

折原 敬一

全国の組合員、JA、県連ならびに関係者の皆さま、新年あけましておめでとうございます。旧年中は本会の事業全般にわたり、利用結集いただき、心より感謝申しあげます。

令和8年が、豊かな実りと組合員の笑顔あふれる一年となることを願うとともに、全農グループの役職員・従業員が心をひとつにして、経済事業を担う全国連として皆さまからご評価いただけるよう、全効力で努力することをお約束いたします。

昨年もまた、大雨、高温、渴水、台風などの自然災害や、鳥インフルエンザ等の重要な家畜疾病により、各地で多大な農業被害が発生しております。被害に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申しあげる一方で、全農は組合員の営農と地域農

業の一日も早い復旧・復興に向けて、必要な対応に力を注いでまいることをお伝えいたします。

一昨年の夏場以降、米の生産・流通・消費にかかる社会的な関心が高まっております。とりわけ政府備蓄米の流通にあたっては、全農グループの総力を結集し、計画どおり8月末までに販売を完了することができました。入札・契約・輸送・販売・精米加工・事務処理・広報対策など、一連の業務について、全農グループの機能がしっかりと発揮された証であると安堵しているところです。

農業を取り巻く環境は、かつてないスピードで変化しております。このため全農は、令和7年度を初年度とする「JA全農事業ビジョン2030」を策定し、長期的な事業

の方向性と目標を明確にいたしました。

全農が発足して半世紀、この間育んできた“つくる”力、“とどける”力、そして“つながる”力は全農グループ事業のエンジンですが、時代が求める新たな機能の開発には投資し、他企業・団体とは連携を深め、今後も目まぐるしく変化する事業環境に柔軟に対応してまいります。

生産者の営農継続と地域農業の振興が全農グループの存在意義であり、2030年のめざす姿「持続可能な農業と食の提供のために『なくてはならない全農』であり続ける」の実現に向け、今年も役職員・従業員一同邁進いたします。

農業を守ることは、国民を守り、国土・環境を守るということ。農業という名の国の基幹産業を日々担っているという誇りを胸に、農業と地域を支えるJAグループの大きくて深い価値を世の中に発信することについても積極的に取り組んでまいります。

結びに、この一年が皆さまにとって輝かしい年となることを心から祈念し、新年のごあいさつといたします。



新春対談

なくてはならない 存在をめざして

～新たな挑戦と搖るがぬ原点～

全農経営管理委員会

折原 敬一 会長

プロフィギュアスケーター

村上 佳菜子さん



スポーツを通じて得た 出会いと学び

折原敬一会長 あけましておめでとうございます。
村上佳菜子さん あけましておめでとうございます。
折原会長 2017年に現役を引退されて以降、幅広い分野でご活躍の村上さんですが、昨年はどんな一年でしたか。
村上さん おかげさまで色々なお仕事に挑戦させていただき、あつという間に過ぎた印象です。会長はいかがでしたでしょうか。

折原会長 2025年を振り返ると、やはり米の供給不安が生じたことで、私たち全農にとっては非常に厳しい一年でした。現場の職員たちは本当に苦労続きだつたと思います。「お米が足りなくなるかもしれない」と、日本全体が揺れ動く中、生産者、JAグループ関係者、取引先との協議のために各所を奔走する日々でした。その一方で根拠のない憶測や偏った見解が一部メディアやSNSで広がり、批判的な意見やクレームも多く寄せ

されました。対応に当たった職員は、本当に大変な思いをしながら、日夜奮闘してくれたと思います。昨年を通して改めて実感したことは、安全・安心な食を提供するという本来の使命と同様に、正しい情報を発信し続けるということも、全農の重要な役割の一つだということです。

村上さん 本当にあの時は周囲の人たちもお米の確保に奔走していました。うちでは普段からご飯を多めに炊いており、冷凍保存しながらやりくりしています。会長はいかがでしたでしょうか。

折原会長 それが何よりもがたいことです。
村上さん 東日本大震災の時にも、被災地の子どもたちをアイ

ました。対応に当たった職員は、本当に大変な思いをしながら、日夜奮闘してくれたと思います。昨年を通して改めて実感したことは、安全・安心な食を提供するという本来の使命と同様に、正しい情報を発信し続けるということも、全農の重要な役割の一つだということです。

村上さん 本当にあの時は周囲の人たちもお米の確保に奔走していました。うちでは普段からご飯を多めに炊いており、冷凍保存しながらやりくりしています。会長はいかがでしたでしょうか。

折原会長 それが何よりもがたいことです。
村上さん 東日本大震災の時にも、被災地の子どもたちをアイ



たこともあって、なんとか困ることなく過ごせたのですが、改めてお米の大切さを痛感する出来事でした。私はロケ撮影で日本各地にお邪魔することも多いので、米農家さんのご苦労を耳にする機会もありました。農家さんたちのお話を直接お聞きして、今まで以上に「日本のお米をいっぱい食べて応援しなくちゃ!」と思いました。

折原会長 JAグループは協同組合ですから、お互いに助け合うことで困難を克服する力をもっています。私自身、1973年に山形県の尾花沢市農協に入組し、當農指導員の仕事などで現場一筋に歩んできましたので、職場や地域における人のつながりがいかに大事かということを、いつも身にしみて感じていました。つらい時や苦しい時も、先輩や仲間がいたからこそ乗り越えられたと思います。村上さんも現役時代、多くの人の支えがあつてこそ頑張ってこられたのではないでしようか。

村上さん おっしゃる通りです。そもそもスケートリンクがあつてこそ、私たちは競技ができるのですが、製氷をしてくださる方がいなければ選手は氷上

られました。対応に当たった職員は、本当に大変な思いをしながら、日夜奮闘してくれたと思います。昨年を通して改めて実感したことは、安全・安心な食を提供するという本来の使命と同様に、正しい情報を発信し続けるということも、全農の重要な役割の一つだということです。

村上さん 本当にあの時は周囲の人たちもお米の確保に奔走していました。うちでは普段からご飯を多めに炊いており、冷凍保存しながらやりくりしています。会長はいかがでしたでしょうか。

スショードに招待するという取り組みに参加させていただいたのですが、地域のJA職員さんと一緒に組んでいらっしゃる姿が強く印象に残っています。私自身は皆さんを励ますことしかできない中、JAグループの皆さんで地域の連携により、復興活動が具体的に進んでいくのを見

て、とても感動しました。

たこともあって、なんとか困ることなく過ごせたのですが、改めてお米の大切さを痛感する出来事でした。私はロケ撮影で日本各地にお邪魔することも多いので、米農家さんのご苦労を耳

にする機会もありました。農家さんたちのお話を直接お聞きして、今まで以上に「日本のお米をいっぱい食べて応援しなくちゃ!」と思いました。

たこともあって、なんとか困ることなく過ごせたのですが、改めてお米の大切さを痛感する出来事でした。私はロケ撮影で日本各地にお邪魔することも多いので、米農家さんのご苦労を耳



に上がることすらできません。ほかにも、衣装の準備や、食事管理や体のケアなど、チームや家族のサポートがあつてこそこの競技です。かかわつてくださる方々全員に感謝をしていました。

折原会長 私も学生時代はクロスカントリースキーの選手でした。スポーツを通じて得られる人との出会い、達成感はかけがえのない財産だと思います。目標を立て、それに向けて努力をし、最後までやり遂げる。これは組織や仕事も同じですが、自分一人では到底なしえないよう

なことでも、周りの人たちと協力することで、高い目標が達成できる。こうした体験を多くの子どもたちにもしてほしいって、全農では様々なスポーツ支援にも取り組んでいます。

村上さん それは素晴らしい活動ですね。会長がおっしゃった達成感は、まさに私がスケートをやつていて一番感じたことです。難しいジャンプが飛べるようになつた時の喜びや、試合でスタンディングオベーションをもらった時の喜びは、何ごとも代えがたいものでした。

折原会長 選手時代と現在とでは、食との向き合い方などは変わりましたか。

村上さん 食に関しても、実は現役時代よりも引退してからの方が意識するようになつたんです。選手だった頃は「食事」というと、体重や体型のことを重くなると飛べなくなるし、

食への思い 次世代への願い



さられる時に、味噌汁やパックご飯を提供したり、海外での流通ネットワークを生かして、日本産のお米や和牛を使ったお弁当を提供したりしています。

村上さん それは選手にとって貴重なサポートですね。私はお米を食べるとすごくパワーが出る感覚があり、現役時代の「勝負めし」はいつもお米でした。

引退してからは食を楽しむ余裕ができたので、色々な食材を吟味して選んでいます。今は自分で買った食材を自分で調理して食べているので、食品売り場では農産物の产地を毎回チェックしちゃいます(笑)。私は愛知県出身なので、愛知県のものが東京のスーパーに出回っていると、なんだか誇らしくて嬉しくなるんです(笑)。自分で選んで買うようになつてから、食材はなるべく国産のものを選ぶようにしています！

折原会長 アスリートにとつての食は、体力や筋肉のことを考えて、競技の際に十分に力を発揮できる食材や食べ方ではなくてはなりませんよね。全農も日本代表の選手たちが海外遠征をするとき氷店を出店されるとお聞きしましたが、お店で使用する食材もご自分で選ばれるのですか。

村上さん はい、かき氷に使う果物はすべて私たちで仕入れて



伝えてもらいたいものです。

村上さん はい、国産の食材のPRを頑張ります！でも、農業の現場にお邪魔すると、農家さんの高齢化や後継者不足で悩まれているといったお声をお聞きすることも多くて、心を痛めています。

折原会長 まさに、それは喫緊の課題です。とりわけ近年は、肥料や燃料、飼料などの農業資材コストが高騰し、高止まりしています。いかに生産者の手取りを増やすか、担い手が夢をもつて農業に取り組める環境を整えるか。こうしたミッショニンに私たち全農も全力で取り組んでいるところです。

います。旬のフルーツを調べて、試食してから購入するので、かかり水店を始めてから、果物の旬に詳しくなりました！

折原会長 果物がお好きなんですね！

村上さん 大好きです。愛知県はイチジクの一大産地ですから、地元では安価で手に入りやすいんです。だから、イチジクの旬の時期には地元に帰りたくなっちゃいますね（笑）。あとは、

畜産物の魅力なども、村上さんを通じて、ぜひとくさん的人に

折原会長 それは大変ありがたうことです。地域の直売所や農畜産物の魅力などを、村上さん役割の一つであると考えていま

す。そのために、新規就農者や

若い農業者が実践型の研修を受けられるチャレンジファームやトレーニングセンターを設置し、担い手世代が新たに挑戦できる環境を整え、バックアップする体制を整えています。

村上さん 農業でも実践的なトレーニングを積める場所があるというのはいいですね。

折原会長 農業はどうしても「経験と勘が頼り」といったイメージがありますが、これからはスマート農業などへの対応も含め、最先端の技術を習得できる人材育成が不可欠です。私たち全農の使命は生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋となることです。そのためには何よりも地域の営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組まなければなりません。村上さんのご友人のように、新規就農者として地域に根ざしながら頑張ってくれる人がどんどん増えることを願っています。

折原会長 そのように自身の体験や教訓を次世代に伝えていくことこそ、育ててくれた人やチーム、業界への恩返しにもなりますね。

村上さん おっしゃる通りです。最近は残念なことに「以前ほどファイギュアスケートを見なくなつた」という声を耳にすることや、アイスショーでも空席が目立つこともあります。今

**原点は揺るがず
挑戦にひるまず**

は子どもたちも大切な存在です。全農では「田んぼの生きもの調査」や「全農親子料理教室」、「全農みんなの子ども料理教室」といった食農教育を長年続けています。都府県本部でも熱心に取り組んでいて、こうした活動が地域の隅々まで広がり根づいてくれることが、大切な次世代教育につながると信じています。

村上さん 私自身を育ててくださいた山田満知子コーチを見ていて思ったのは、一人ひとりの個性に応じて言葉や教え方を変えている、ということでした。それぞれの性格や受け止め方を注意深く見て、塩梅を変えてあげることが大事なんだと気づきを得ました。

折原会長 そのように自身の体験や教訓を次世代に伝えていくことこそ、育ててくれた人やチーム、業界への恩返しにもなりますね。

村上さん おっしゃる通りです。最近は残念なことに「以前ほどファイギュアスケートを見なくなつた」という声を耳にすることや、アイスショーでも空席が目立つこともあります。今

役割の一つであると考えていま

折原会長 次世代という意味で



ゲストプロフィール

むらかみ・かなこ 1994年愛知県生まれ。3歳からスケートを始め、伊藤みどりや浅田真央らを育成した山田満知子コーチに師事。2009年JGPファイナル優勝、2010年世界ジュニア選手権優勝。2010年～2011年シーズンGPシリーズアメリカ杯優勝、グランプリファイナル銅メダル獲得。2013年の全日本選手権で総合2位となり、2014年ソチオリンピック出場。同年の四大陸選手権で初優勝。2017年に競技生活から引退し、現在はプロフィギュアスケーターとしてアイスショーなどに出演するほか、解説者やタレントとして幅広く活動中。



後は私もいつそう幅広いジャンルで様々な活動をしていきたいと思っているのですが、それは少しでもスケートに興味をもつてくれる人が増え、業界を盛り上げていきたいという願いがあるからです。そうすることでファイギュアスケートに恩返しができればと思っていました。

折原会長 そんな村上さんは2026年をどんな年にしたいですか。

村上さん これは毎年の目標でもあるのですが、心も体も健康でいられるように、自分を大事に

したいと思っています。ファイギュア関係の具体的な活動としては、高橋大輔さんプロデュースの「滑走屋」というアイスショーへの出演や、「村上佳菜子のファイギュアスケート音楽会」というコンサート企画なども織田信成さんをゲストにお迎えして予定しています。こうした新しい取り組みにもどんどんチャレンジしていく

折原会長 私たち全農も20

30年に向けた「JA全農事

業ビジョン2030」を策定し、「なくてはならない存在」と色々な人から思っていただけがとうございました。

折原会長 こちらこそ、ありがとうございました。

村上さん 私も農業界における全農さんのように、ファイギュア界において「なくてはならない存在」と色々な人から思っていました。

消費者を結ぶ懸け橋として、安全で新鮮な国産農畜産物をお届けするという原点は搖るぎません。国消国産、そして食料自給率の向上に向け、一層強固に取り組んでいきたいと思います。

村上佳菜子さんから お年玉 プレゼント



村上佳菜子さんのサイン入り色紙を5名様にプレゼントいたします。ご応募お待ちしています。

応募方法

2次元コードを読み取り、郵便番号、住所、氏名、所属JA、電話番号、「JA全農ウイークリー」の感想をご記入の上、ご応募ください。

応募はこちらから



締め切り

2026年1月10日(土)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報はプレゼントの発送にのみ使用いたします。



新春初夢プレゼント

全国から一押しの逸品を取りそろえました。ふるってご応募ください。



JATOWN
いわて純情セレクト

10名様

岩手のローストビーフ
食べ比べセット
(200g×2)



JATOWN
あつめて、兵庫。

1名様

但馬牛がっせえ盛り
(切落し・1kg)冷凍



ジャパン・フード・セレクション「グランプリ」受賞! いわちく独自の「肉汁閉じ込めしつり製法」で、おいしい肉汁をしっかりと閉じ込め、お肉のうまみを最大限に引き出した逸品です。霜降りの「いわて牛」と赤身の「いわて短角和牛」。岩手を代表する2つの牛肉の風味をギュッと閉じ込めました。

但馬牛のおいしさの秘密は、持って生まれた肉質と味です。飽きのこない味わいが特徴で、柔らかさ・おいしさ・そしてうまみが口の中でとろけます。JAたじま「肉の店」では、おいしい但馬牛をより多くの方々にお召し上がりいただきたいと本物の品質にこだわり続けております。「がっせえ」とは、但馬弁で「すごい」という意味で、こだわり抜いた但馬牛をがっせえ規格でご用意しました。

JATOWN
ニッポンエールショップ

3名様

ニッポンエールグミ
47都道府県
コンプリートBOX
(グミ47種類×各1袋)



JATOWN
しづおか『手しお屋』

3名様

静岡茶 採一ひとえ
つゆひかりブレンド
ティーバッグ
(5g包×10×2袋)



ニッポンエールグミ47都道府県のコンプリートBOXをお届けします。全国各地の特色ある国産果汁などを使用したご当地グミをお楽しみいただけます。袋を開けると豊かな香りが広がり、もっちりとした柔らかめの食感です。ニッポンエールは、「日本全国47都道府県から届けられる日本産のたべものに、そしてにっぽんに、ここからエールをおくろう。」をコンセプトに誕生したブランドです。

静岡生まれの品種「つゆひかり」をブレンドした、採一ひとえつゆひかりブレンドティーバッグ。鮮やかな緑と、渋みを抑えたまろやかでコクのある味わいのお茶です。「学校や職場で手軽に飲める」がコンセプトのティーバッグタイプで、お湯でも水でも手軽に、水筒やマイボトルに入れて本格的な静岡茶を楽しめます。

JATOWN
JA全農かながわ

3名様

湘南はるみ
ライスウイスキー
(200ml)



JATOWN
JA全農いちば
愛情いちばん館

3名様

【新豆】千葉県産
落花生殻付き
セット(300g×3袋)



JATOWN
JA全農あおもり

5名様

サンふじ
約3kg
(特A9~12玉)
JAつがる弘前



神奈川県産米「はるみ」の3等米を使用したジャパニーズシングルライスウイスキーです。日本が誇るお米のみで作られており、精米された米に、麦芽の代わりに発芽玄米を使用して糖化させる世界的にも例のない独自技術を採用。お米由来の、まろやかな甘みやうまみが深く、口当たりがなめらかなウイスキーをお楽しみください。

千葉県産の落花生殻付き[300g×3袋]のセットです。袋を開けた瞬間に漂う、じっくりいあげた落花生の香ばしい香り、カリッとかむと口に広がるほんのりとした甘み、ついつい手が出てしまう癖になるおいしさです。掘った落花生を畑で積み上げ、自然乾燥させる「ぱっち」は、千葉の秋の風物詩です。このひと手間が、落花生の風味を一層引き出しています。

多くの方に愛される大人気の品種。甘み・酸味・果汁の多さにしっかりとした食感を兼ね備えたサンふじは、赤りんごの代表格。袋をかけずに太陽の光をたっぷり浴びて育てられました。バランスの良い味わいで、多くの方から愛される定番品種です。りんごは冷やすと一層おいしくなります。生ものですので、できるだけ早めのお召し上がりをおスメしますが、ポリ袋に入れ密閉して冷蔵庫で保存すると、しばらくの間、鮮度が保たれておいしく召し上がれます。

応募方法

2次元コードを読み取り、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、ご希望の商品、JA全農Wi-Fiクリーの感想をご記入の上、ご応募ください。

締め切り

2026年1月10日(土)23時59分

*応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

応募はこちらから



►JAタウンはこちらから
<https://www.ja-town.com>
►お問い合わせは
shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
1月5日・1月12日号は休刊いたします。
次号は1月19日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。